

平成27年度 科学技術に関する予算等の資源配分の方針(案)【概要】

基本的考え方 - 「科学技術イノベーション総合戦略2014」(6月24日閣議決定)の確実な実行に向けて -

- 戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)を継続的かつ力強く推進し、成果を確実に出口(実用化・事業化)へ
- 政策課題の解決に向け、アクションプランにより各府省の施策のプログラム化等を促進し、年間PDCAサイクルを確立
- 持続的なイノベーションシステムを目指し、研究開発法人をはじめとする制度改革と連動する政策パッケージを推進
- 「第4期科学技術基本計画」及び「日本再興戦略」に基づく政府研究開発投資の促進(対GDP比1%)等を関係府省において努力

平成27年度予算における重点化の考え方(ポイント)

1. 直面する重要課題への対応

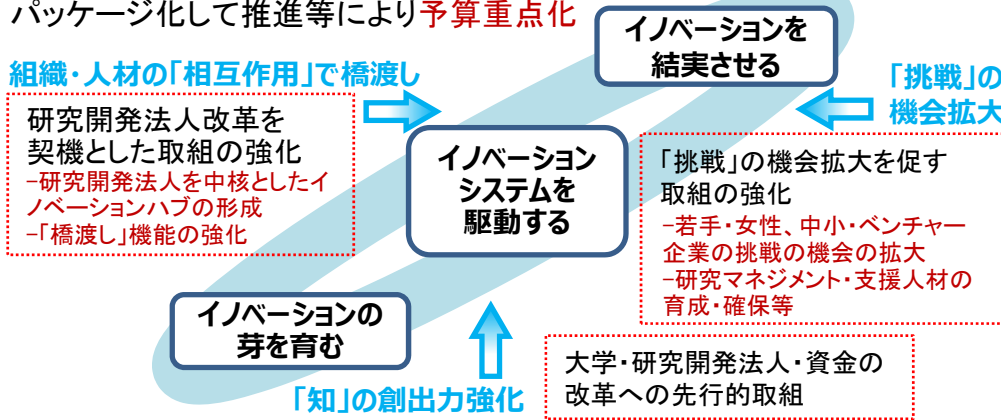
(SIPを先導とするアクションプランを用いた政策誘導)

- 総合戦略2014第2章の政策課題(エネルギー/健康長寿/次世代インフラ/地域資源/復興再生)の解決に資する、
 - 中心的役割のSIPを補完し相乗効果をもたらす施策群
 - 府省一体(連携・重複排除)で取組が必要な施策群
 - 産業競争力強化の源泉となる分野横断技術を「アクションプラン対象施策」に特定し、予算重点化
- 施策の特定からフォローアップまで、詳細工程表に基づき、有識者議員が主導して重要課題専門調査会を活用する一貫した審議体制で推進し、PDCAを強化(行政事業レビューとも連動)
- 27年度科学技術イノベーション創造推進費は、
 - 目未定調整費で要求し、SIPを継続的かつ力強く推進
 - SIPの10課題の内容を精査し配分を機動的に見直し
 - 必要に応じ新規課題の追加、課題の入れ替えも検討

(※)健康医療分野に関しては、健康・医療戦略推進本部の下で推進する。

2. 科学技術イノベーション環境創出(イノベーションシステム改革)

総合戦略2014第3章に基づく制度改革と連動させ、全体最適化の視点で予算で重視すべき以下の施策をパッケージ化して推進等により予算重点化



3. 国家的に重要な研究開発の評価

大規模新規研究開発など国家的に重要な研究開発の評価を実施し、その結果を予算編成過程で活用

科学技術イノベーション予算戦略会議

概要

科学技術イノベーション総合戦略(平成25年6月7日閣議決定)に基づき、政府全体の科学技術関係予算に関し、イノベーション創出に向けた予算の重点化及び各府省の取組等について、関係府省の緊密な連携を確保し、必要な調整を行うため、内閣府に設置。

構成員

総合科学技術・イノベーション会議有識者議員の出席を基本とし、以下のとおり。

議長 内閣府特命担当大臣(科学技術政策)

副議長 内閣府政策統括官(科学技術・イノベーション担当)

構成員 内閣官房日本経済再生総合事務局次長、警察庁長官官房技術審議官、総務省大臣官房総括審議官、外務省軍縮不拡散・科学部長、文部科学省科学技術・学術政策局長、厚生労働省大臣官房技術総括審議官、農林水産省農林水産技術会議事務局長、経済産業省産業技術環境局長、国土交通省大臣官房技術総括審議官、環境省総合環境政策局長、防衛省大臣官房技術監

開催実績

(平成25年度)

第1回会合(6月20日): 科学技術イノベーション総合戦略、平成26年度科学技術関係予算の重点化等の進め方

第2回会合(7月16日): 戦略的イノベーション創造プログラム、科学技術重要施策アクションプラン、イノベーション環境創出

第3回会合(9月3日): 戦略的イノベーション創造プログラム

第4回会合(11月14日): 平成26年度科学技術関係予算の編成に向けて

(平成26年度) ※「科学技術イノベーション総合戦略2014」(6月24日閣議決定)の実行に向け開催

第5回会合(6月5日): 平成27年度科学技術関係予算の概算要求に向けて

第6回会合(6月26日): 平成27年度科学技術関係予算の重点化等の進め方